

ICT を活用し、多職種で在宅療養を支えています

済生会茨木訪問看護ステーションでは、利用者さまが住み慣れた地域で安心して療養生活を続けられるよう、MCS(Medical Care Station)などの ICT を活用し、医療・介護関係者との情報共有・連携を行っています。

主治医、訪問看護師、薬剤師、ケアマネジャー、リハビリ専門職などが、利用者さまの状態や支援内容について必要な情報を共有し、多職種が一つのチームとなって支援する体制を整えています。

MCS とは？

MCS(Medical Care Station)は、医療・介護関係者が利用者さまに関する情報を、安全な環境で共有するための医療・介護連携コミュニケーションツールです。

利用者さまの体調変化や療養上の課題などを関係職種が共有することで、迅速で適切な支援につなげています。

ICT 連携でできること

① 状態変化を速やかに共有

利用者さまの体調変化や、ご本人・ご家族からの相談内容を関係職種で共有し、必要な対応につなげます。

② 情報共有の漏れを防ぐ

電話や FAX だけでは伝わりにくい内容についても、関係職種間で情報を共有しやすくなります。

③ 切れ目のない支援につなげる

医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャー・リハビリ専門職などが、それぞれの専門性を活かしながら利用者さまを支援します。

主な連携職種



大阪府済生会
茨木訪問看護ステーション

多職種連携ネットワーク
(MCS)

つながる医療、
支えあう暮らし



安全な情報管理に取り組んでいます

情報共有は、利用者さままたはご家族の同意を得たうえで行っています。

情報を閲覧できる関係者を必要な範囲に限定し、適切なアクセス管理を行っています。

また、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」等を踏まえ、安全な通信環境の確保と個人情報の適切な管理に努めています。

主な医療情報連携機関

- ・ 藍野病院
- ・ アイルすまいるクリニック
- ・ 中神クリニック
- ・ 中尾内科クリニック

- たちばなクリニック
- なかクリニック
- ホームケアクリニック摂津
- みそら訪問クリニック茨木院
- とも在宅クリニック
- 千里ホームケアクリニック

※上記以外の医療機関・介護事業所とも、電話・FAX 等を含め、利用者さまの状況に応じた連携を行っています。

よくあるご質問

Q. 利用者自身が MCS を操作する必要がありますか？

A. 基本的には、医療・介護専門職間の情報共有に活用しています。

Q. 個人情報は大丈夫ですか？

A. 利用者さま・ご家族の同意を得たうえで、必要な関係者に限定して情報共有を行っています。

Q. どのような職種が情報共有するのですか？

A. 医師、訪問看護師、薬剤師、ケアマネジャー、リハビリ専門職など、利用者さまを支援する関係職種です。

Q. ICT を使うことで何が変わりますか？

A. 体調変化などの情報を関係職種で共有しやすくなり、より迅速で切れ目のない支援につながります。